

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.6.20-26

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

8:1 その日、アハシュエロス王は王妃エステルに、ユダヤ人を迫害する者ハマンの家を与えた。モルデカイは王の前に来た。エステルが自分と彼との関係を明かしたからである。
8:2 王はハマンから取り返した自分の指輪をはずして、それをモルデカイに与え、エステルはモルデカイにハマンの家の管理を任せた。

8:3 エステルが再び王に告げて、その足もとにひれ伏し、アガグ人ハマンがユダヤ人に対してたくらんだわざわいとそのたくらみを取り除いてくれるように、泣きながら嘆願したので、

8:4 王はエステルに金の笏を差し伸ばした。そこで、エステルは身を起こして、王の前に立って、

8:5 言った。「もしも王さま、よろしくて、お許しが得られ、このことを王さまがもっともとおぼしめされ、私をおいれくださるなら、アガグ人ハメダタの子ハマンが、王のすべての州にいるユダヤ人を滅ぼしてしまえと書いたあのたくらみの書簡を取り消すように、詔書を出してください。

8:6 どうして私は、私の民族に降りかかるわざわいを見てがまんしておられましょう。また、私の同族の滅びのを見てがまんしておられましょうか。」

8:7 アハシュエロス王は、王妃エステルとユダヤ人モルデカイに言った。「ハマンがユダヤ人を殺そうとしたので、今、私はハマンの家をエステルに与え、彼は柱にかけられたではないか。

8:8 あなたがたはユダヤ人についてあなたがたのよいと思うように、王の名で書き、王の

指輪でそれに印を押しなさい。王の名で書かれ、王の指輪で印が押された文書は、だれも取り消すことができないのだ。」

8:9 そのとき、王の書記官が召集された。それは第三の月、すなわちシワンの月の二十三日であった。そしてすべてモルデカイが命じたとおりに、ユダヤ人と、太守や、総督たち、およびホドからクシュまで百二十七州の首長たちとに詔書が書き送られた。各州にはその文字で、各民族にはそのことばで、ユダヤ人にはその文字とことばで書き送られた。

8:10 モルデカイはアハシュエロス王の名で書き、王の指輪でそれに印を押し、その手紙を、速く走る御用馬の早馬に乗る急使に託して送った。

王はエステルにハマンの財産を与え、モルデカイに地位と権力を与えました。ある人はこれで安泰と喜び、次にはそれを守ろうとするかもしれませんが、エステルたちは違いました。ユダヤ人を守ろうと「泣いて嘆願した」のです。

主に従う者は祝福され、財産や名誉が与えられることが多いのですが、それを自分の欲のために用いれば、そこから衰退は始まります。地位も財産もみこころのために用いましょう。

先のユダヤ人迫害のための指令は王の直接の名と印があったのものではありませんでしたから、今名と印があればさきのものよりも権威があり、それが有効になります。ユダヤ人は救われたのです。まさにそれは危機一髪でした。主の御手は決して遅くなることはないのですから、心配しすぎることなく、主に信頼し続けましょう。その安心の中で、勇気を持って主に従いましょう。主のみこころのために決断しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 火曜

エステル



8:11 その中で王は、どこの町にいるユダヤ人にも、自分たちのいのちを守るために集まって、彼らを襲う民や州の軍隊を、子ども女たちも含めて残らず根絶やしにし、殺害し、滅ぼすことを許し、また、彼らの家財をかすめ奪うことも許した。

8:12 このことは、アハシュエロス王のすべての州において、第十二の月、すなわちアダルの月の十三日の一日のうちにちなうようになつていた。

8:13 各州に法令として発布される文書の写しが、すべての民族に公示された。それはユダヤ人が、自分たちの敵に復讐するこの日の準備をするためであった。

8:14 御用馬の早馬に乗った急使は、王の命令によってせきたてられ、急いで出て行った。この法令はシュシャンの城でも発布された。

8:15 モルデカイは、青色と白色の王服を着、大きな金の冠をかぶり、白亜麻布と紫色のマントをまとして、王の前から出て来た。するとシュシャンの町は喜びの声にあふれた。

8:16 ユダヤ人にとって、それは光と、喜びと、楽しみと、栄誉であった。

8:17 王の命令とその法令が届いたどの州、どの町でも、ユダヤ人は喜び、楽しみ、祝宴を張って、祝日とした。この国の民のうちで、自分がユダヤ人であることを宣言する者が大ぜいいた。それは彼らがユダヤ人を恐れるようになったからである。

ユダヤ人に自分たちを守る権利が与えられ、抑圧から解放されました。またモルデカイの栄光は人々から喜びをもって迎えられました。それまで栄華を誇っていたハマンに代わったモルデカイを喜んだと

いうことは、彼が人々から尊敬されていたことが分ります。神による解放と救い。これはイエス様による救いを思わせませす。このような国中をあげての喜びである、リバイバルの日を願わずにはいられません。

そこに至るまでの苦難と従いと勇気を思い、私たちがまたリバイバルを求めて、エステルのようにモルデカイのように主に頼りつつ勇気を持ってチャレンジしましょう。

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）





9:1 第十二の月、すなわちアダルの月の十三日、この日に王の命令とその法令が実施された。この日に、ユダヤ人の敵がユダヤ人を征服しようと望んでいたのに、それが一変して、ユダヤ人が自分たちを憎む者たちを征服することとなった。

9:2 その日、ユダヤ人が自分たちに害を加えようとする者たちを殺そうと、アハシュエロス王のすべての州にある自分たちの町々で集まったが、だれもユダヤ人に抵抗する者はいなかった。民はみなユダヤ人を恐れていたからである。

9:3 諸州の首長、大守、総督、王の役人もみな、ユダヤ人を助けた。彼らはモルデカイを恐れたからである。

9:4 というのは、モルデカイは王宮で勢力があり、その名声はすべての州に広がっており、モルデカイはますます勢力を伸ばす人物だったからである。

9:5 ユダヤ人は彼らの敵をみな剣で打ち殺し、虐殺して滅ぼし、自分たちを憎む者を思いのままに処分した。

9:6 ユダヤ人はシュシヤンの城でも五百人を殺して滅ぼし、

9:7 また、パルシャヌダタ、ダルフォン、アスパタ、

9:8 ポラタ、アダルヤ、アリダタ、

9:9 パルマシュタ、アリサイ、アリダイ、ワイザタ、

9:10 すなわち、ハメダタの子で、ユダヤ人を迫害する者ハマンの子十人を虐殺した。しかし、彼らは獲物には手をかけなかった。

9:11 その日、シュシヤンの城で殺された者の

数が王に報告されると、

9:12 王は王妃エステルに尋ねた。「ユダヤ人はシュシヤンの城で、五百人とハマンの子十人を殺して滅ぼした。王のほかの諸州では、彼らはどうしたであろう。あなたは何を願っているのか。それを授けてやろう。あなたはなおも何を望んでいるのか。それをかなえてやろう。」

9:13 エステルは答えた。「もしも王さま、よろしければ、あすも、シュシヤンにいるユダヤ人に、きょうの法令どおりにすることを許してください。また、ハマンの十人の子を柱にかけてください。」

9:14 そこで王が、そのようにせよ、と命令したので、法令がシュシヤンで布告され、ハマンの十人の子は柱にかけられた。

9:15 シュシヤンにいるユダヤ人は、アダルの月の十四日にも集まって、シュシヤンで三百人を殺したが、獲物には手をかけなかった。

9:16 王の諸州にいるほかのユダヤ人も団結して、自分たちのいのちを守り、彼らの敵を除いて休みを得た。すなわち、自分たちを憎む者七万五千人を殺したが、獲物には手をかけなかった。

ユダヤ人たちが殺したのは、彼らを殺そうとした者たちであって、それは正当防衛でした。ユダヤ人はこの地では寄留者であり常に弱い立場でしたので、自分たちを守る必要があったのです。しかしそれは法令の範囲内のことであって、秩序のもとに行われました。すなわち彼らは「獲物には手をかけなかった」のです。

エステルも王から願いを聞かれたときに、さらなる復讐は求めずに、すでに死んでいる敵を木にかけて、敵の復讐心をそぐという知恵によるもの

でした。

神を信じ従う者は、どんなに弱い立場に置かれようとも主は守ってくださいます。主を信じましょう。また自分に勝利が与えられたときも、思うままに振舞うのではなく、主のみこころを行いましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





9:17 これは、アダルの月の十三日のことであって、その十四日には彼らは休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

9:18 しかし、シュシャンにいるユダヤ人は、その十三日にも十四日にも集まり、その十五日に休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

9:19 それゆえ、城壁のない町々に住むいなかのユダヤ人は、アダルの月の十四日を喜びと祝宴の日、つまり祝日とし、互いにごちそうを贈りかわす日とした。

9:20 モルデカイは、これらのことを書いて、アハシュエロス王のすべての州の、近い所や、遠い所にいるユダヤ人全部に手紙を送った。

9:21 それは、ユダヤ人が毎年アダルの月の十四日と十五日を、

9:22 自分たちの敵を除いて休みを得た日、悲しみが喜びに、喪の日が祝日になった月として、祝宴と喜びの日、互いにごちそうを贈り、貧しい者に贈り物をする日と定めるためであった。

9:23 ユダヤ人は、すでに守り始めていたことを、モルデカイが彼らに書き送ったとおりに実行した。

9:24 なぜなら、アガゲ人ハメダタの子で、全ユダヤ人を迫害する者ハマンが、ユダヤ人を滅ぼそうとたくらんで、プル、すなわちくじを投げ、彼らをかき乱し、滅ぼそうとしたが、9:25 そのことが、王の耳にはいると、王は書簡で命じ、ハマンがユダヤ人に対してたくらんだ悪い計略をハマンの頭上に返し、彼とその子らを柱にかけたからである。

9:26 こういうわけで、ユダヤ人はプルの名を取って、これらの日をプリムと呼んだ。こ

うして、この書簡のすべてのことばにより、また、このことについて彼らが見たこと、また彼らに起こったことにより、

9:27 ユダヤ人は、彼らと、その子孫、および彼らにつく者たちがその文書のとおり、毎年定まった時期に、この両日を守って、これを廃止してはならないと定め、これを実行することにした。

9:28 また、この両日は、代々にわたり、すべての家族、諸州、町々においても記念され、祝われなければならないとし、これらのプリムの日が、ユダヤ人の中で廃止されることなく、この記念が彼らの子孫の中でとだえてしまわないようにした。

自己中心な権力者ハマンは、プルすなわちくじを引いてユダヤ人を滅ぼす時をニサンの月と決めましたが、その日は逆にハマンの滅びでありユダヤ人の解放のときとなりました。このプルこそが神の全能の救いの象徴であるとして、ユダヤ人は長く記憶するために、プリムの祭りとしたのです。人は自分のために計画を持ち、特に神に敵対する者はその自己目的のために、はかりごとをめぐりますが、結局最終的成就するのは神の計画です。

私たちはエステルやモルデカイのようにその勝利にあずかることができますが、それはあくまでも神様のご計画でありまた恵と憐れみです。それを忘れないように記念する必要があります。

主の恵を忘れないようにしましょう。自分中心な勝利ではなく、あくまでもへりくだるために主のみわざとして記憶しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:29 アビハイルの娘である王妃エステルと、ユダヤ人モルデカイは、プリムについてのこの第二の書簡を確かなものとするために、いっさいの権威をもって書いた。

9:30 この手紙は、平和と誠実のことばをもって、アハシュエロスの王国の百二十七州にいるすべてのユダヤ人に送られ、

9:31 ユダヤ人モルデカイと王妃エステルがユダヤ人に命じたとおり、また、ユダヤ人が自分たちとその子孫のために断食と哀悼に関して定めたとおり、このプリムの両日を定まった時期に守るようにした。

9:32 エステルの命令は、このプリムのことを規定し、それは書物にしるされた。

10:1 後に、アハシュエロス王は、本土と海の島々に苦役を課した。

10:2 彼の権威と勇気によるすべての功績と、王に重んじられたモルデカイの偉大さについての詳細とは、メディヤとペルシャの王の年代記の書にしるされているではないか。

10:3 それはユダヤ人モルデカイが、アハシュエロス王の次に位し、ユダヤ人の中でも大いなる者であり、彼の多くの同胞たちに敬愛され、自分の民の幸福を求め、自分の全民族に平和を語ったからである。

王妃エステルとモルデカイが記録を残すようにしたとあります。彼らはその権威を持っていたからです。このように自分の地位や権威は、神様から与えられたものなので、神様のために用いるべきです。

その記録の内容は本書を読んでわかるように、エステルやモルデカイを美化したものではありませんでした。モルデカイがハマンを怒らせてしまったことや、エステルが初めは自分の使命が明確でなかつ

たことなど、決して自分をよく見せようという意図がなかったのです。そしてイスラエルを救ったのはプリムであって、そこに働いた見えない神の御手がクリーズアップされています。主のことを語る者はこのように、自分に死んできよい思いで語ることが必要です。

10章は年代記の書に言及されていますから、後代の方が書いたと思われる。それでモルデカイが賞賛されています。それとともにアハシュエロス王も賞賛されているのは、ユダヤ人の解放に役かったということかもしれません。またこの書がペルシャ社会に存在するための知恵でもあったでしょう。

このようにどんなに迫害の中にあっても、その信仰を守ろうとするなら、主は守ってくださること、またそこには主からの知恵も与えられていることも信じましょう。信仰者がどんなに少数派であっても、どの時代であっても同じです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





22:1 わが神わが神どうして私をお見捨てになつたのですか。私を救わず遠く離れておられるのですか。私のうめきのことばにもかかわらず。

22:2 わが神屋に私はあなたを呼びます。しかしあなたは答えてくださいません。夜にも私は黙っていられません。

22:3 けれどもあなたは聖なる方御座にしておられる方イスラエルの賛美です。

22:4 あなたに私たちの先祖は信頼しました。彼らは信頼しあなたは彼らを助け出されました。

22:5 あなたに叫び彼らは助け出されました。あなたに信頼し彼らは恥を見ませんでした。

22:6 しかし私は虫けらです。人間ではありません。人のそしりの民的の蔑みの民的です。

22:7 私を見る者はみな私を嘲ります。口をとがらせ頭を振ります。

22:8 「【主】に身を任せよ。助け出してもらえばよい。主に救い出してもらえ。彼のお気に入りなのだから。」

22:9 まことにあなたは私を母の胎から取り出した方。母の乳房に抛り頼ませた方。

22:10 生まれる前から私はあなたにゆだねられました。母の胎内にいたときからあなたは私の神です。

22:11 どうか私から遠く離れないでください。苦しみが近くにあり助ける者がいないのです。

22:12 多くの雄牛が私を取り囲みバシヤンの猛者どもが私を囲みました。

22:13 彼らは私に向かって口を開けています。かみ裂く吼えたける獅子のように。

22:14 水のように私は注ぎ出され骨はみな外

れました。心はろうのように私のうちで溶けました。

22:15 私の力は土器のかげらのように乾ききり舌は上あごに貼り付いています。死のちりの上にあなたは私を置かれます。

22:16 犬どもが私を取り囲み悪者どもの群れが私を取り巻いて私の手足にかみついたからです。

22:17 私は自分の骨をみな数えることができます。彼らは目を凝らし私を見えています。

22:18 彼らは私の衣服を分け合い私の衣をくじ引きにします。

22:19 【主】よあなたは離れないでください。私の力よ早く助けに来てください。

22:20 救い出してください。私のたましいを剣から。私のただ一つのを犬の手から。

22:21 救ってください。獅子の口から野牛の角から。あなたは私に答えてくださいました。

イエス様の十字架の苦しみを歌った詩篇です。これはダビデの苦しみをモチーフにしていますが、そのダビデの苦しみがイエス様のひな型になっているのです。

イエス様は十字架上で「わが神わが神どうして私をお見捨てになつたのですか。」と言われたのですが、これは御父に対する恨みごとではなく、まさに詩篇のことばを思い起こしておられたのです。そしてそのみことばの実現が、まさに今であつたことを確信なさつたのだと思われまふ。

私たちもダビデのような苦しみに会うことがあります。イエス様が十字架で身代わりとなり、すべてを負ってくださったことを信じましょう。そして主イエス様に信頼してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:22 私はあなたの御名を兄弟たちに語り
告げ会衆の中であなたを賛美します。

22:23 【主】を恐れる人々よ主を賛美せよ。
ヤコブのすべての裔よ主をあがめよ。イスラ
エルすべての裔よ主の前におのけ。

22:24 主は貧しい人の苦しみを蔑まざるとわ
ず御顔を彼から隠すことなく助けを叫び求め
たとき聞いてくださった。

22:25 大いなる会衆の中での私の賛美はあな
たからのものです。私は誓いを果たします。
主を恐れる人々の前で。

22:26 どうか貧しい人々が食べて満ち足り主
を求める人々が【主】を賛美しますように。
——あなたがたの心がいつまでも生きるよう
に——

22:27 地の果てのすべての者が思い起こし
【主】に帰って来ますように。国々のあらゆる
部族もあなたの御前にひれ伏しますように。

22:28 王権は【主】のもの。主は国々を統べ
治めておられます。

22:29 地の裕福な者はみな食べてひれ伏しち
りに下る者もみな主の御前にひざまずきます。
自分のたましいを生かすことができない者も。

22:30 子孫たちは主に仕え主のことが世代を
越えて語り告げられます。

22:31 彼らは来て生まれてくる民に主の義を
告げ知らせます。主が義を行われたからです。

主への嘆きの歌が、信仰の勝利によって賛美に変
わっています。ここに信仰者の力があります。私たち
にはこの世にあって患難があるとイエス様は名言
なさいますが、それと同時にイエス様は世に勝って
いるのだとも言っておられます。

私たちは主の勝利がすでに与えられていることを

信じましょう。苦しいとき、まさに十字架を追う
ようなときにこそ、信じてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願ひ
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

